

泊江高等学校 令和5年度 教科 公民 科目 政治・経済演習 年間授業計画

教科：公民 科目：政治・経済演習 単位数：4単位

対象学年組：第3学年1組～4組の選択生徒

教科担当者：小倉

使用教科書：『高校政治・経済 新訂版』〈実教出版〉

使用副教材：『最新政治・経済資料新版2023』〈第一学習社〉

	指導内容	科目政治・経済の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
4月	民主政治の基本原則と日本国憲法	社会契約説について、現代の民主政治との関連を踏まえて学習する。例えば、ホッブズとの比較の上でロックが説いた自然権に基づく国家・政府の在り方は現代の議会制民主主義の基盤となっていることなどを理解する。その上で、支配と権力の妥当性について考察し、現代の民主国家の成り立ちについての理解を深める。また、ルソーの直接民主制支持に至る理路についても比較的考察する。	定期考査 授業態度	4
		大日本帝国憲法との違いを明確にしながらい現行憲法の三大原理を理解するとともに、旧憲法では天皇が統治権を総攬するとしていたが、日本国憲法においては天皇が、内閣の助言と承認により国事に関する行為を行うとされる象徴天皇制となっていることを理解する。重要な視点としては、根本的な立憲主義に照らしたときに現れる明治日本の民主制がもつ形式主義を常に批判的に考察するよう常に留意する。		4
		我が国における三権分立の仕組みについて、国会・内閣・裁判所の各機関の働きと相互の関係を踏まえて理解するとともに、議院内閣制の特徴を、とくに大統領制との比較によって理解する。そして、ドイツ・イタリアの象徴大統領制やイギリスの立憲君主制などの制度と比較しながら、三権分立がどう実現されているのかを整理し、理解する。		4
5月	民主政治の基本原則と日本国憲法	自由権の基本権と社会権の基本権の相違を踏まえ、成立の背景に経済格差が存在していたことを理解しつつ、具体的な内容について理解する。例えば生存権の保障は、夜警国家から福祉国家への転換や福祉政策に関わる立法過程と深く結び付いていたことを理解する。ラッサールやアダムスミス、マルクスなど対応人物を常に紐づけるよう留意する。	定期考査 授業態度	4
		現代社会における相互の権利や利害対立を調整するための原理が「公共の福祉」とよばれ、これを常に参照し、合意に資する努力をすべきことを、経済的自由権の制限に関する判例学習を通して理解する。精神的自由権および経済的自由権における二重の基準の視点まで踏み込めるようなら踏み込む。		4
		我が国の議会制民主主義について、日本国憲法の条文に則して理解するとともに、議院内閣制を採用するイギリスや大統領制を採用するアメリカ合衆国の政治制度との比較を通じて、その特徴を理解し、そのメリット・デメリットについて考察する。その中で、我が国の行政国家化が進行していることに触れる。		4
		我が国の地方自治制度において、住民自治の実現を図るために憲法等で条例制定・改廃、議会の解散、議員・首長の解職等についての直接請求権が認められていることを知ることから、地方自治がトクヴィル・ブライスのいうところの民主主義の学校として期待されていることを理解する。演習をおこない、定着度を逐次確認する。		4

	指導内容	科目政治・経済の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
6月	民主政治の基本原則と日本国憲法	同じ民主政治を採用しているとはいえ、世界各国の政治体制や政治状況は多様であることを理解するとともに、現代における福祉国家の広がりによって国家機能の複雑化が進行し、結果、現代国家が行政国家化している現状について考察する。演習をおこない、定着度を逐次確認する。	定期考査 授業態度	4
	現代の国際政治	我が国の戦後政治史を概観し、中選挙区制の下での自民党による長期政権持続や、選挙制度改革後の政権交代の流れなど、選挙制度と政治情勢の変化について事例を踏まえて理解する。最終的に自民党優位体制が持続してきているという理解に着地する。		4
		国際社会の多極化が進行した世界で環境、人権、貿易などの分野で各国の対立が発生し、深まりをみせる中で、国際機関や非政府組織(NGO)による問題解決のための取組が強く求められている現状を理解し、自分たちがその活動にどのように参加していけるのかを考察、構想する。演習をおこない、定着度を逐次確認する。		4
		三十年戦争後のウェストファリア条約を端緒とする主権国家の成立や、主権国家体制と国際法による秩序形成の意義について理解し、現在の国際問題を考える土台とする。初期に行った領域や主権についての復習も行う。		4
7月	現代の国際政治	国際法上の人権、国家主権に関する規定を理解するとともに、我が国固有の領土である北方領土、竹島、尖閣諸島をめぐる問題の経緯と我が国の正当な立場と問題解決の難しさを理解する。演習をおこない、定着度を逐次確認する。	定期考査 授業態度	8
		冷戦後の国際政治の動向を踏まえ、人類の平和的共存を実現するには民族対立や国際紛争の背景にある「文化・宗教の多様性」について互いに理解を深めることが重要であることを、紛争の実例の学習を通して理解する。演習をおこない、定着度を逐次確認する。		8
9月	現代経済の仕組みと特質	生産された財やサービスを効率的に分配するための仕組みとして私たちの国では市場経済が発達してきたことを理解し、それが世界史的な経済体制の動きと深い関係があることについて考え、日常を経済学的に切り出すことを通して、経済学的な発想を身に着ける。	定期考査 授業態度	4
		家計、企業、政府の経済的な相互関係が国民経済の全体を構成していることや、貿易や為替における円高・円安の相場の変動や国際経済の動向が国内経済にも影響を与えることを理解する。演習をおこない、定着度を逐次確認する。		4
		需要供給曲線を活用して価格メカニズムについて理解するとともに、公害などの外部不経済の発生や、企業の巨大化に伴う寡占の広がりなど、市場機構が十分に機能しない場合には、政府による適切な政策を通じた公共財・公共サービスの供給が必要であることを理解する。グラフについては初歩的な部分からデモンストレーションして理解させる。		4
		インフレーションやデフレーションの発生が国民生活に与える影響について、インフレーションは景気の過熱や投資・投機の拡大と結び付き、デフレーションは景気後退や不況と結び付いていることを理解する。また国際情勢が物価に影響を与える例として石油危機の学習を行い、スタグフレーションが引き起こした影響を理解する。ギャロッピングインフレやハイパーインフレなどの言葉の意味にも触れる。		4
		財政による景気調整の機能として、増減税や公共支出を活用した伸縮的な財政政策(フィiscalポリシー)及び自動安定化装置(ビルト・イン・スタビライザー)について理解し、政府の財政政策がもつ国民経済への影響を考える。自動安定化装置は政府が状況に応じて判断するのではないという部分を強調し、両者を比較して捉えるよう伝える。		4

	指導内容	科目政治・経済の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
10月	現代経済の仕組みと特質	金融政策の考え方や金融市場における金利動向について、中央銀行が公開市場操作を行うことで通貨供給量を調整していることや、金融市場における金利の動向が通貨供給量の変化に波及し、消費や貯蓄、投資行動に影響を与えることを理解する。そして、金融のグローバル化によって金融政策の困難さが増している現状について考える。演習をおこない、定着度を逐次確認する。	定期考査 授業態度	4
	国民経済と国際経済	同じ市場経済に基づく経済であっても、国や地域によって独自の歴史や文化的背景をもち、それぞれ特徴を有していることについて、我が国と欧米諸国との比較を通じて理解することで、国際問題における貿易のダイナミクスを考える土台を作る。演習をおこない、定着度を逐次確認する。		4
		経済活動と国民福祉との関連について、環境保全よりも経済成長を重視することで、公害などの外部不経済が発生し、結果、むしろ国民福祉が阻害される場合があることを事例とともに理解し、SDGsという言葉が生まれたことの本質の一端を追究する。演習をおこない、定着度を逐次確認する。		4
		貿易の意義について、アダム・スミスの見えざる手やリカードの比較優位説を踏まえて国際分業の利点を理解するとともに、国際収支の内訳や変動相場制の仕組み等について理解する。一方で、リストの保護貿易理論も参照しながら、資源の効率的配分の実現可能性について考える。演習をおこない、定着度を逐次確認する。		4
		国際貿易体制の動向をGATTの各ラウンド交渉の変遷を通じて知るとともに、ブレトンウッズ体制からスミソニアン協定を経て変動相場制へ移行したという、国際通貨制度の変遷について理解し、円安・円高メカニズムへの認識を深める。演習をおこない、定着度を逐次確認する。		4
11月	国民経済と国際経済	グローバル化が進む国際経済における地域経済統合の概念を知り、EUのように政治統合まで志向する地域や、東南アジア諸国連合(ASEAN)のように経済統合を目指す地域など、様々な志向形態があることを理解するとともに、イギリスのEU離脱などにみられる「統合を目指し過ぎることの軋轢」について考える。とくにアジア圏の経済連携は多種に及ぶので、把握しやすいように図示する。	定期考査 授業態度	4
	現代日本の政治や経済の諸課題	南北問題の原因とその解決策及び南南問題と呼ばれる新たな経済的格差問題とその解決方法の試みについて知る。例えば、アラブ地域の産油国やアジアを中心とする新興国の発展とその課題について、資源ナショナリズムや国際通貨危機などと関連させて理解したり、途上国に対するODAやマイクロファイナンス、フェアトレードなどの活動があることを理解したりすることを通して、自分の行動範囲でできることは何か考える。演習をおこない、定着度を逐次確認する。		4
		少子高齢社会における社会保障の在り方について、政府による行政的な福祉政策を重視する考え方と、国民の自助努力を重視した福祉の考え方とがあり、具体的な事例を通じて、二つの考え方のどちらを重視すべきかについて意見を交換する。演習をおこない、定着度を逐次確認する。		4
		地域社会の特色ある発展を促すには、国と地方の関係を見直し、地方分権を推進するための政策や制度を改廃すること、およびそのための議論が必要であることを理解し、自身が所属する自治体の現状について考える。演習をおこない、定着度を逐次確認する。		4
		日本の今後の農業と食料の問題については、農業における生産、流通、貿易を自由化し、競争原理を導入する考え方と、国内農業を保護するための政策を推進する保護主義的な考え方があることを理解し、どちらを優先すべきかについて意見を交換する。演習をおこない、定着度を逐次確認する。		4

	指導内容	科目政治・経済の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
12月	国際社会の政治や経済の諸課題	地球環境と資源・エネルギー問題については、地球環境の保全を優先する考え方と、生活水準の向上を目指す経済発展(開発)を優先する考え方とがあることを理解し、どちらも調和的にめざすために持続可能な開発という概念が謳われるのだという構図を理解し、国家としてどちらを優先すべきかについて考える。演習をおこない、定着度を逐次確認する。	定期考査 授業態度	4
	国際社会の政治や経済の諸課題	国際経済格差の是正については、国際機関によるODAなどの経済援助を中心とする考え方と発展途上国の自助努力を中心とする考え方などがあり、発展途上国の経済的自立と地球の持続可能な発展が重要な課題であることを理解し、日本のODA額が00年代を通して減った事実なども踏まえ、望ましい格差是正の手段について考える。演習をおこない、定着度を逐次確認する。		4
1月	国際社会の政治や経済の諸課題	人種・民族問題や地域紛争については、少数民族の分離・独立という考え方と多数民族との共生という考え方とがあり、その二つの考え方をバランスよく参照しながら現実の地域紛争等の問題を理解しようとするところ、民主的な社会を実現させるための必要な態度であることを理解し、具体的なケースを通してその方法について考える。演習をおこない、定着度を逐次確認する。	定期考査 授業態度	8
2月	(特別時間割)	(特別時間割を活用した一年間の総復習および各自が設定した個別学習課題の探求を行う。)		
	(特別時間割)	(特別時間割を活用した一年間の総復習および各自が設定した個別学習課題の探求を行う。)		
	(特別時間割)	(特別時間割を活用した一年間の総復習および各自が設定した個別学習課題の探求を行う。)		
	(特別時間割)	(特別時間割を活用した一年間の総復習および各自が設定した個別学習課題の探求を行う。)		
3月	(特別時間割)	(特別時間割を活用した一年間の総復習および各自が設定した個別学習課題の探求を行う。)		
	(特別時間割)	(特別時間割を活用した一年間の総復習および各自が設定した個別学習課題の探求を行う。)		